（別紙様式＝小学校用）

都道府県番号	３３
都道府県名	岡山県

【　①□　　②☑　　③☑　】
＊重点をおいた観点にチェックすること

Ⅰ　学校名及び規模

学校名	井原市立西江原小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	１３	２１
児童数	４８	４２	４３	４２	５１	５６	3	２８５	

Ⅱ　研究の概要

（１）研究主題

「生きる力」としての学力向上を目指す授業実践
－国語・算数と生活科・総合的な学習との関連付けを通して－

（２）研究主題設定の趣旨

国語･算数を中心に教科の基礎･基本を確実に定着させ，生活科･総合的な学習と内容面･目指す学力面での関連を意図的･計画的に組み込む単元づくりを工夫すれば，児童自らの知の総合化が図られ，「生きる力」としての学力が向上すると考えた。

また，TTによる指導法の工夫や評価を生かした授業づくりを実践することにより，児童の基礎的･基本的な学力と学びの意欲が相乗的に高まり，児童の生活に生きて働く「生きる力」としての学力が向上すると考えた。

Ⅲ　研究の概要

（１）研究推進体制の工夫

研究推進委員会 ― 全体会
＜校長，教頭，教務主任，研究主任，TT 担当，国語部・算数部・生活科・総合的な学習部の推進委員＞

- 学年部
  - 低学年部：学級担任，特殊学級担任，養護
  - 中学年部：学級担任，TT 担当，専科担当
  - 高学年部：学級担任，教務主任，専科担当
- 教科部
  - 国語部：２年・４年・６年より１名
  - 算数部：TT 担当，教務主任，１年・３年・５年より１名，専科担当２名
  - 生活科・総合的な学習部：研究主任，各学年より１名，特殊学級担任，養護

（２）研究の実際

○ 目指す学力の設定:
「生きる力」としての学力（社会生活を営む上で必要な知識や技能の習得にとどまらず，自らの学びやよりよい生活を創るために生きて働く力）

○ 目指す子ども像:　自ら学び，よりよい生活を創っていく子ども

○ 国語･算数･生活科･総合的な学習における具体的な目指す学力の設定:
＜国語＞　豊かな言語的活動を通して高める伝え合う力
＜算数＞　豊かな算数的活動を通して高める自ら考える力
＜生活科･総合的な学習＞　自己を見つめ，よりよい生き方を目指す力

○ 研究の重点

	関連付けを生かした教材・単元づくり	評価を生かした授業づくり
国語	◎伝え合うための表現力を高め，生活に生かす単元づくり ・表現力を高める単元構成 ・豊かな言語の体得や子どもの表現モデルづくり	○自己評価・ポートフォリオを生かした課題解決学習・プロジェクト学習の工夫による児童の主体的な学びの獲得 ○TT指導体制等の工夫による個に応じたきめ細かな支援 ○観点別学力評価規準の作成と評価方法の確立，ならびに，平成14年度と15年度における学習意欲等の調査と学力の比較分析による実態の生かし方 ○ゆとりの中で「生きる力」を育む教育課程編成（2学期制の導入）による長いスパンの有効活用と適正な評価の工夫
算数	◎算数的活動を通して培った考える力を生活に結び付ける単元づくり ・生活に結び付ける単元構成 ・豊かな感覚づくりや算数のよさの体得	
総合的な学習・生活科	◎自己を見つめ，生活の課題を追究する単元づくり ・自己を見つめ生活に生かす時間の充実した単元づくり ・主体的な学びの連続の保持と生き方の気付き	

◎国語を明確にし，学習内容と関連させた単元づくり

○ 具体的な工夫と実践例

	関連付けを生かした教材・単元づくり	評価を生かした授業づくり
国語	○「話す・聞く」「話し合う」能力を高めるための単元構成（2年「作って遊んで伝えよう」）（4年「二分の一成人にかんぱい!」）（６年「話し合って考えを深め，意見文にまとめよう」） ○「書く」能力を高めるための単元構成（5年「わたしたちの研究レポート」）（4年「西小4年生活白書を作ろう」） ○子どもの表現モデルを生かした単元構成（3年「すてきな名前をつけよう」） ○グループの話し合い活動を充実させる単元構成（4年「無人島でくらすとしたら」） ○生活科・総合的な学習と意図的に関連付けた単元構成（１年「おみせやさんごっこをしよう」）	○評価規準・評価計画表の作成 ○評価基準を提示しめあてをはっきりもたせた授業づくり ○個の変容を見取るための座席表の活用 ○自己評価力を高めるための振り返りの時間の確保 ○学力テスト分析と個に応じた指導の対策づくり ○伝え合う力の学年別系統表の作成 ○低・中・高学年別「話し合いのてびき」作成 ○自分の力を確かめられる「マスター漢字プリント」 ○日常生活に積極的に取り入れた「話す・聞く・話し合う」場の工夫 ○豊かな心を育むための「おはよう読書」の推進
算数	○単元の後半に習熟度別学習を取り入れた単元構成＜1～6年＞ ○児童の興味・関心・意欲や学力，内容に応じた少人数指導を取り入れた単元構成＜3～6年＞ ○補充的学習を組み込んだ単元構成＜1～6年＞ ○多様な算数的活動を取り入れた単元構成（1年「たしざん　ひきざん　クイズ大会をしよう」） ○児童が興味をもって取り組む図形領域の単元構成（パターンブロックの活用） ○豊かな感覚づくりや算数のよさを体得する単元構成（2年「おむすびマンは三角形がすき!食パンマンは四角形がすき!」）（3年「マスマ博士に重さの比べ方や量り方を伝えよう」） ○身近な生活そのものから課題を見つけ，主体的・総合的に解決していく単元構成	○評価規準・評価計画表の作成 ○個の変容を見取るための座席表の活用 ○事前実態調査の活用 ○授業後のTTによる個の見取りの情報交換 ○自己評価力を高めるための振り返りの時間の確保 ○学力テスト分析と個に応じた指導の対策づくり ○全学年全クラスTT指導（年間を通して）（全学年２クラス）単元のどの時間でも自由に学年を解体し，４人の教師が分担し合って課題別・習熟度別学習ができる時間割編成 ○低・中・高学年別「学習のてびき」の活用 ○学習の系統を意識させる「学年別学習内容表」の活用 ○学年別「算数通信」の発行 ○補充学習のための「算数教室」の実施 ○力に応じて進められる「チャレンジ算数プリ

	（3年「チャレンジ算数はかせ」） ○生活科・総合的な学習と意図的に関連付けた単元構成（５年「見積もり上手でらくらく計算」）	ント」 ○算数ファイルによる学習の足跡づくりと活用
生活科・総合的な学習	○自己の生き方を見つめることができる単元づくり ○地域との関連を図り地域社会に生きる単元づくり（2年「とびだせ！たんけんたい」）（３年「輝け!西江原おどろきマップを知らせ隊」）（６年「わたしたちがつくるハッピータウン西江原!」） ○異文化交流を通して共生する心を育む単元づくり（５年「ワールド宝探しツアーに出かけよう!」） ○食を通して自分の健康を見つめる単元づくり（4年「GO！GO！西江原っ子“元気”調査隊」） ○保育園・幼稚園との連携を生かした単元づくり（1年と幼「夏と遊ぼうわくわくプール」）（１・２年と保・幼「わくわくまつりをしよう」） ○教科・道徳との関連を意図的に生かした単元づくり（3年「昔の西江原小学校にタイムトラベル」） ○ITを活用した単元づくり（４年「パソコン名人になろう」）	○評価規準・評価計画表の作成 ○自己評価力を高めるための活動のまとまり・単元の終わりの振り返りの時間の確保 ○ポートフォリオを活用し，学んだことを自分の生活に生かす時間の充実 ○児童相互，異学年交流を生かした他者評価 ○学校ボランティア・ゲストティーチャーによる他者評価 ○児童の願いを大切にし，ゴールをみすえたプロジェクト学習 ○児童の興味・関心に基づいたグループ活動をダイナミックにするための支援（TTによる支援） ○主体的な学びを支える話し合い活動の充実 ○学びの連続性と夏休みの有効活用の支援 ○保育園・幼稚園との連携

（３）研究の成果と課題

○ 国語では，グループでの話し合いや学級討論会などを意図的に組み込んだ単元構成を工夫したことにより，一人一人が自分の考えや思いを伝えようとする意欲が高まり，話し合いが活発になった。

○ 算数では，多様な算数的活動を取り入れたことにより，自分なりの方法で課題を解決しようとする姿がみられた。また，操作活動を通して，数量や図形についての豊かなイメージをもつことができ，筋道を立てて考える際に役立っている。

○ 国語で身に付けた伝え合う力を発揮する場を，他教科や総合的な学習で意図的に関連付けて設定することにより，表現方法や内容が確かなものになってきている。

○ 総合的な学習や児童の生活と関連付けて算数の授業をすることにより，日常生活から進んで課題を見つけたり，学んだことを自分の生活に生かそうとしたりするなど，生きて働く算数の力がみられるようになった。

○ 総合的な学習では，振り返りの時間を大切にすることにより，次の活動への意欲付けとなったり，自分の成長を見つめたりすることができた。また，学んだことを自分の生活に生かしていこうとする意識がみられるようになった。生活科では，幼稚園・保育園との連携が密になった。

○ 評価計画・評価規準を作成し，それにもとづき座席表等を活用して児童の変容を記録することにより，つまずきや伸びを見取り支援に生かすことができた。

○ 平成14年度と15年度の学力検査結果分析

・ 昨年度から取り組んでいる算数におけるTT指導などのきめ細かな支援の成果が少しずつでている。

・ 15年度の観点別では，「知識・理解」「表現・処理」はどの学年も100～103と上回っている。「数学的な考え方」では，2～4年生は100～103だが，5年生は92，6年生は95で，高学年における指導の工夫が必要である。（全国得点率を100とした場合）

・ 国語は本年度からの重点教科であるが，算数での主体的な学びが国語にも波及し， 学力面での伸びがみられたのではないかと考える。

・ 15年度の観点別では，「書く力」が全体的に弱い。「話す・聞く」だけでなく伝え合う力の一つとして，「書く」単元づくりにも取り組んでいきたい。

○ 他の教科・道徳・特別活動・総合的な学習などさまざまな機会に話し合う活動を設定し，言語力を高め，伝え合う力を小さなグループから大きな集団の場で生かしたり，考えを練り上げたりしていくことができるようにする。

○ 算数では，考える力を高める算数的活動を組み込む。TTのよさを生かすとともに，児童の実態に合わせて習熟度・課題別等の少人数指導にも積極的に取り組み，学力向上を図る。

○ 生活科・総合的な学習では，自分の生活を見つめ，生活に生かすことができるようなより価値のある単元づくりをする。

○ 評価規準の見直しと中心単元での評価基準を作成する。
○ ２学期制のよさを生かして長いスパンでの適切な評価により，指導と評価の一体化を一層図る。
○ 国語・算数と生活科・総合的な学習との内容面・目指す学力面での関連をはっきりさせた実践事例を基に総合的な学習の年間計画を作成し，それぞれの学力を高めるとともに，相乗効果が図れるような実践をする。
○ 国語・算数と生活科・総合的な学習との学力の関連を分析し，学力向上の検証をする。

（４）研究成果の普及の方策

○ 平成１４年度末より，ホームページ公開（http://www.ibara.ne.jp/~nishisho/）
○ 平成１６年１２月１０日（金）全学年・全学級の授業を公開する実践発表会の開催予定（倉敷事務所管内）

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 □１５年度からの新規校 ☑１４年度からの継続校

【学校規模】 □６学級以下 □７～１２学級 ☑１３～１８学級 □１９～２４学級 □２５学級以上

【指導体制】 ☑ 少人数指導 ☑ Ｔ．Ｔによる指導 □ 一部教科担任制 □ その他

【研究教科】 ☑ 国語 □ 社会 ☑ 算数 □ 理科 ☑ 生活 □ 音楽 □ 図画工作 □ 家庭 □ 体育 ☑ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ☑ 有 □無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント（都道府県教育委員会記入）】

○ 生活科，総合的な学習と関連させての取組。評価を生かした授業づくりの実践。